牛群検定通信　No137

～　秋に向けての対策　～

今年は長い梅雨の後、猛暑がやってきましたが、８月のお盆前から大雨が２週間程度続き各地で災害等も見られました。一方、気温はそれほど上がらず、牛にとっては一見しのぎ易い夏のように見えましたが、湿度が１００％近い日が２週間も続いたため、かえって牛のダメージは例年より大きいように思えます。通常ならば９月や１０月に多い乳房炎の多発や起立不能などの疾病が８月中下旬から出始めており、いわゆる夏バテの症状が早くなっている傾向が見られます。また、いつもは乳房炎が少ない農場でも多発しており、事態は深刻のように見えます。これはストレスによるカルシウムを含む飼料摂取量の低下が原因と考えられますが、暑熱のストレスに加え、湿度が高いため不快な環境でのストレス、更に湿度の非常に高い状況と高温により飼料にカビが発生したことも原因として考えられます。長雨の後、また猛暑が襲ってきていますので、今年は牛にとって３重のパンチをもらったようなもので、ダメージも相当あると思いますので、秋に向けて細心の注意を払って管理する必要があります。

このようなダメージを負った牛達に対して、行わなけれならないことはたくさんあるのですが、今年はまずカビのことを頭に置いて管理しなければなりません。飼料タンクにカビが発生していないか、すぐにでも確認する必要があります。また、飼料倉庫の粗飼料にもカビが発生している可能性もありますので臭いやほこりの状況を確認しなければなりません。更に、飼料会社の倉庫でカビが発生している可能性もありますので、持ってきた飼料の確認も必要です。一方、自給飼料を栽培されている方は長雨により刈り取り時期が大幅に遅れたり倒伏したりして、これもまたカビが発生する可能性が高くなっている場合がありますので気を付けてください。

カビを牛が摂取すると、調子が悪くなることはよく知られていますが、カビの種類は非常に多く、症状も異なりますので、その全てに対応するのは専門家でもなければ難しいものがありますが、一番の対処方法はカビを摂取させないということですから、飼料のカビの状況を確認することが重要で、カビを発見した場合、もったいないと思わず、思い切って廃棄することが大切です。またカビ毒吸着剤を添加しているから大丈夫だ、と思っている方もおられると思いますが、それは通常のカビの量の場合で、今年は長雨の影響が大きく、カビの量も多く、たくさんの種類のカビが発生している可能性もありますので、注意が必要です。

カビが牛に摂取されると、牛はカビ毒を肝臓で解毒しますが、その量が余りに多くなると肝機能が低下し、免疫力が低下したり、カルシウムの吸収力が低下したり、糖の生産力が低下するなど乳牛の生産性が大きく低下します。今年の夏に３重パンチをもらった牛達では、カビ毒の攻撃に耐えられない牛も多く出てきます。この秋を乗り越えていくためには、まず、カビの生えている飼料を食べさせないこと、カルシウムをしっかり与えることなどに気を付けなければなりません。

2021 年 9 月家畜改良事業団情報分析センター